

【こんなものを用意しておこう】

避難場所での生活に備え、日ごろから、避難するときに必要なものをリュックなどに入れて取り出しやすいところに置いておきましょう。

また、避難の必要が無い場合も、電気・ガス・水道に被害が生じたときは復旧に数日間かかることがあるので、非常食や飲料水を最低でも3～5日分用意しておきましょう。

- 携帯ラジオ：小さく軽いものを。予備の電池も忘れずに。
- 懐中電灯、ろうそく：停電時には欠かせません。
- ヘルメット（防災ずきん）、スリッパ：落下物やガラスの破片から頭部や足元を守ります。
- 非常食、水：甘いものなどの嗜好品も用意しておきましょう。
- 生活用品、衣類：ライター、マッチ、ウエットティッシュ、ラップ、ビニール袋など。
携帯電話の簡易充電器もあると良いでしょう。
- 救急薬品、常備薬：持病のある人は常備薬を忘れずに。
- 通帳、証書類、印鑑：預貯金通帳、健康保険証、免許証など。
- 現金：紙幣のほか、公衆電話用の10円硬貨も用意しておきましょう。



3. 情報の備えは大丈夫？

台風の接近や大雨が予想されるときは、テレビやラジオの気象情報をチェックするほか、防災行政無線などを通じた市からの情報提供に注意し、災害関連情報の収集に努めましょう。

地域の備え、再点検

災害が起こってしまったとき、避難やその後の暮らしに最も力を発揮するのは、隣近所や地域の人同士のつながり、助け合いです。

市内全域で同時に大きな被害が発生するような災害では、行政の迅速な活動には限界があり、地域の皆さん同士の助けあいが欠かせません。日ごろから、地域における防災活動をととした地域全体の災害への備えが必要です。

○地域における防災活動とは？

災害時以外では、講演会・講習会の開催や地域内における災害時の危険箇所の確認、防災訓練の実施などといった地域内における防災知識の普及をはじめ、高齢者など災害時において避難が困難と思われる方々（「災害時要援護者」といいます。）を把握しておくことも、災害時における迅速な避難や被害の減少につながる大切な活動です。

また災害時には、避難誘導、救護・救援、初期消火といった応急活動をはじめ、炊き出しや情報収集・伝達といったくらしの維持に関わる活動が挙げられます。



○自主防災組織の設立をお願いしています

こうした地域における防災活動を実践する組織として、自主防災組織があります。

自主防災組織とは、地域において「自分たちの地域は自分たちで守る」という理念・連帯感に基づき地域における防災活動を行う組織です。

市では、災害時には、より生活に密着した区域における助け合いが必要であると考え、町内会を単位とした自主防災組織の設立を各町内会にお願いしており、早期の全町内会における自主防災組織の設立に取り組んでいます。

自主防災組織の設立や活動支援の詳細については、市総務課までお問い合わせください。



8月30日から9月5日までの防災週間にあわせ、9月中の1か月間、Net3のコミュニティチャンネル（5CH）で防災情報番組「シリーズ防災」が放送されます。ぜひご覧ください。

市民の皆さん一人一人の家庭や地域における日ごろの備えが、災害による被害を最小限に食い止め、くらしを守り、多くの命を救うことにつながります。

安心・安全なまちづくりへの取り組みに、市民の皆さんのご協力をお願いします。

問合せ先 総務課（内線211）

9月は台風・大雨の季節です ～家庭の備え・地域の備えは大丈夫ですか？～

7月の梅雨前線による大雨は、九州から北陸にかけての広い範囲で甚大な災害をもたらしました。

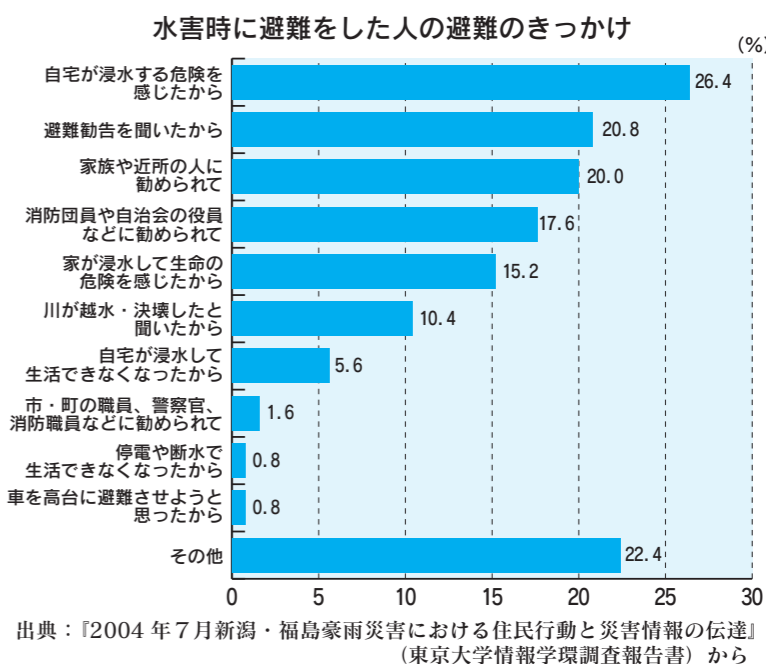
そしていよいよ9月。台風や大雨による風水害がいつそう起こりやすい季節がやってきました。いざというときに自分や家族を守るには、日ごろの備えが非常に大切です。

9月1日は「防災の日」。改めて、家庭の備え・地域の備えは大丈夫か確認してみましょう。

家庭の備え・地域の備えが大切です

右の図は、平成16年に発生した新潟豪雨災害の被災者が何をきっかけに避難したのかを示したものです。この図からは、災害時における避難活動が、避難勧告のほか、近所や消防団、自治会の役員など、身近な区域における連携がきっかけとなった場合が多いことがわかります。

このように、避難をはじめとした災害時における対応には、「自分たちのくらしは自分たちで守る」、「地域の安全は、地域の人同士のつながり・助け合いで守る」といった自助・共助による行動が最も大切であり、それらに対する日ごろからの備えが重要であるものといえます。



家庭の備え、再点検

台風や大雨の場合はテレビやラジオなどからあらかじめ情報が手に入ることから、事前の備えによる被害の発生防止を図ることが大切です。

1. 家庭の備えは大丈夫？

- あらかじめ次の事項をチェックし、該当する箇所があれば速やかに直しましょう。
- テレビアンテナが傾いていたり、雨どいが外れそうになったりしていませんか？
- 庭木の枝が折れたり、倒れたりする心配はありませんか？
- 家のまわりに、風に飛ばされやすいものはありますか？
- 雨どいにごみがたまって排水が悪くなっていませんか？
- 家の周辺の排水溝の流れが悪くなっていませんか？

2. 避難の備えは大丈夫？

【避難場所を確認しましょう】

災害時の避難の際は、市が指定する避難場所（施設）に向かう前に、まず身近な区域の避難場所（一時避難場所）に避難し、隣近所の人たちの安否確認や必要なときは初期消火・救援救護などを行うことが被害の軽減につながります。

一時避難場所は自主防災会あるいは町内会で定めていますので、確認しておきましょう。

また、日ごろから一時避難場所から市が指定する避難場所（施設）までの避難経路や災害時における通行に支障がないか？などを、自主防災会や町内会で確認しておきましょう。